

黄色いソファに横並びに座り先ほど買ってきた鯉のぼりが立つぶるぶるを食べる。一口目はあーんしてくれた。あわあわしながら恋人っぽさの演出もサービスに含まれることを知る。少し話した後、一緒に泡風呂に入る。恥ずかしすぎて一切顔を見ることができない。お姫様のように扱ってくれて、ちいち褒めてくれて酸欠になりそう。彼女は私のほのかすぎる腹筋でさえ褒め称えた。

薄暗くした部屋でベッドに入る。ものすごくキスがすごい。もちろん他にも。なんていうか中国雑技団。和菓子職人。眠気と快感、おならレーダー、状況を飲み込めず上からぽかんと眺めてる自分がくるくる訪れる。走馬燈ってこんな感じなのかな。リラックスとエロスの間でまどろんで一瞬寝てしまい口がものすごくかぴかぴになる。通常より声が出た。

桃源郷が出現したわけじゃないけど、めくるめいた。男性との絡みと違って奪われる感じや相手の意に沿う方向の圧がないのが何よりよかった。相手が男なのか女なのか分からないことに自由を感じた。※そもそもなぜ行こうとしたかは割愛。色んな理由が絡んでおり。

帰りのエレベーターでもいちゃこらしてくれるエロホスピタリティたるや。あえて終わったらドライに殺伐としてくれてよいのに。手を繋いで歩いてたら本当にデートしてるような気分になってくる。別れ際は甘い目で見つめられ壁ドン。おなじみのやつだろうと横やりを入れる冷めた自分を包括しながらも左脳以外は激しいきゅんが止まらぬギャランドウ。謎のダンディズムで振り返って手を振るのは野暮とすぐにイヤホンをぶっ刺しA-HAを大音量にする。新町のベジカフェで大豆肉を呆けながら味わう。その日はずっと体がほかほかした。ハマる人はハマるだろうな。私も小金があったら沼るんだろうか。

もはや多くの情報をなぞるだけかとも思いながら旅したインドは想像を超えるカオスだった。胡散臭い人だらけだし牛がそのへん歩いてるし野犬怖いしゴミだらけだし道端で寝てる人いるし物乞いはいるしヤギだらけの日もあるし。スタバに警備員いるし。ちょっとした作業を大人数でめっちゃのんびりやってるし。色んな巻物の人いるし。ディスコで女か男か分からない人物にナンパされたり、下痢が止まらず空港で尻注射される工程でインド人イケメン（に見えた）にうっかり下の毛を見られたりもした。レズ風俗での数時間及び逡巡期間は遊び慣れてる人や恋愛中上級者には大したことないことなのかもしれないけど私にとってはインド旅行に匹敵する経験だった。

そしてこの話のおならの件、死ぬほど面白いと思って色んな人に話すけど皆そんな笑わない。他の部分にインパクトがあるからか。話の持っていきたが下手なのか。でも一緒にインドを旅した友達なら大笑いするにちがいない。もう会うことはなくなったけど。時が経って話せる日が来るといいけど多分無理。悲しいけどどうしようもない。

疲れ果てた旅の終盤、友達が出た後のトイレ、白い便器に真っ赤な血がばさーと広がってて妙に綺麗だったなあ。あああ。ああ。あ。

。。。。

時折飛び込む記憶の羽根もいつかは遠ざかる。せめてもっと面白く話ができるようになれますように。



とっぴモリス

写真とタロット占いをしています。

奥田民子合唱団第二弾の曲も考えたい。

 @binematou